

## 3 活動やイベントを見学する

### 1 次の会話を聞いてみましょう。



ここでは、どんなインターアクションがいいかを考えてもらうために、同じ場面、同じ人物による会話 A（うまくいかなかった例）と会話 B（うまくいった例）の 2 つの例を提示しています。

#### (1) 【場面】を理解する

- 学習者に【場面】を読ませて、誰（＝パク）が、いつ（＝見学をする前）、何をしている状況（＝メールを書いている）なのかを学習者に正確に理解させます。
- 必要に応じて、「パクさんは見学をする前、何をしましたか。」などの質問をして、学習者の理解を確認するといいでしょう。

#### (2) 会話 A・会話 B を聞く

- まず、会話 A を聞きます。ここでは、会話の SCRIPT を読んだだけではわからない話し方（話すスピード、トーンなど）にも注目してもらうため、1 回目は会話の SCRIPT は見ないように学習者に指示します。ただし、p. 46 の 3 枚の絵は内容の理解を助けるので、必要に応じて見てもいいことにします。
- 次に、会話 B を聞きます。会話 B は会話 A とまったく同じ登場人物と同じ場面です。うまくいった例を挙げています。ただし、会話 B はモデル会話ではなく、あくまでも 1 つの例として考えてください。（会話 B の会話 SCRIPT と英語の翻訳は別冊にあります。）

#### (3) ペアやグループで気づいた点を話しあう

- 学習者が気づいた会話 A・会話 B の違いを p. 47 の記入欄（「会話 A・会話 B を聞いて、気づいたことを書いてください。」）に書いてもらいます。まず、各自で考えてもらい、その後、ペア／グループで気づいた点を話しあいます。
- 日本語で表現するのが難しい場合は、まず、母語で書いてもらってもいいでしょう。
- 気づいた点が出てこない場合は、会話 A の SCRIPT の気になる部分に線を引き、「なぜ気になるのか」「自分だったらどのようにするか」などについて考えてもらうと、具体的な点が出てきやすくなります。
- ここでは、次のような点に学習者が気づくことが期待されます。

メール A の問題点	メール B のいいところ
<ul style="list-style-type: none"> <li>・パクは見学のために訪れたことを最初に伝えていない。</li> <li>・すでにメールを送って見学の許可を得ていることを伝えていない。そのため、対応した剣道部員が適切な対応をするまでに時間がかかっている。</li> <li>・唐突に質問を切り出している。</li> <li>・見学のあと、入部に関してどうするかの意味がうまく伝えられていない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パクは、見学のために訪れたこと、すでに見学のためのメールを送ったことを最初に簡潔に伝えている。よって、部員から部長へスムーズに取り次いでもらえた。</li> <li>・質問があるということを告げてから、質問を切り出している。</li> <li>・大事な情報について、繰り返すことで確認している。</li> <li>・見学のあと、入部に関してすぐに決められなくても、考えたあとにメールで返答する旨を伝えている。</li> </ul>

#### (4) ペアやグループで気づいた点をクラス全体で出しあう

- 各ペア／グループの代表者に、気づいた点を 1 つずつ挙げてもらいます。
- 「会話 B の会話のほうがいい」など、大まかな指摘しかなかった場合、「どうしてそう思いますか」などと質問し、具体的な点を出すよう促します。
- ここでは気づきを促し、PART 2 以降の学習への動機を高めるのがねらいです。上に挙げた（気づきが期待される）点のすべてを学習者から出してもらう必要はありません。また、「会話 A の〇〇のほうがいい」など、教師が期待していない答えが出てくることもあります。学習者に自由に意見を述べてもらうようにしましょう。
- PART 2 <インターアクションのポイント>が終わったあとに、もう一度会話 A と会話 B を聞くと、インターアクションのポイントが明確になり、効果的です。